

台風の子節になりました。この週末にかけて14号が接近しています。天気予報から目が離せません。

社会を明るくする運動

法務省が毎年、社会を明るくする運動 作文コンクールを行っています。今年度で71回目を迎えました。地島小学校でも、よりよい社会について考え、行動する力を育むために、取り組み、参加しています。

今年、6年生の江越百花さんが書きました。紹介します。

今、自分にできること

地島小学校 6年 江越 百花

「今年も地島山笠が行えません。」

そう告げられた時、私は、ぼうぜんとしていました。ずっと楽しみにしてきた地島山笠。地島にとっては、夏の風物詩でもありました。山笠ができない悲しさと、その事実を変えられない無力さに打ちのめされていました。

その後、総合の学習で「地島山笠のひみつをさぐる」という活動が始まりました。地島山笠の歴史を調べたり、わからないところを島の人にインタビューしたりしました。その結果、みんな、地島山笠のことがよくわかり、大好きになりました。それと同時に「地島山笠がしたかった。」という思いが、どんどんふくらみましました。

しかし、島の人たちは私たちよりも、たくさん地島山笠を経験しています。「地島山笠ができなくて悲しい」という思いも、とても大きいことだろうと思いました。

「地島の人を元気にしたい」

そういう思いが、私たち、地島小学校みんなの中にふくらみましました。そこで、地島山笠が予定されていた日に、子供山笠げきを島の人に見せることにしました。休み時間なども使って、一生けん命練習しました。

むかえた本番当日、私たちは、島の人が喜んでくれるか、ドキドキしながら、げきをひろうしました。結果は大成功。大きな手をもらいました。島の方は、とっても喜んでくれました。「私たちを元気づけようとしてくれる、その気持ちがうれしい。」「子供たちのげきを見て、こっちが元気をもらった。」などと、たくさんのメッセージをいただきました。私たちは、「地島山笠げきをしてよかった。」としみじみ思いました。

今、世界は「新型コロナウイルス」によって、苦しめられています。毎日毎日、「コロナ感染者過去最多」という文字が流れています。学校の友達との会話でも、「コロナだから・・・。」「コロナのせいで・・・。」とよく話しています。でも、コロナウイルスが流行っていたら、何もできないのでしょうか。私はそうは思いません。

コロナが流行っていて、できないことやあきらめないといけないこともあるかもしれませんが、でも、やれること、できることも必ずあります。どうか、コロナを理由に何でもあきらめないでください。

わたしが「今、自分にできること」をしたら、地島のみんなが明るくなりました。それを世界中の人がしたら、日本がそして世界が明るくなるはずですよ。

百花さんのこの作文を読むと、未来への勇気や希望が湧いてきます。そして、今よりも、もっと明るい社会に向けて、自分が、今、できることが何かを、考えたくくなります。

地島の石けん生活

北九州市に本社がある「シャボン玉せっけん」と宗像市が協定を結び、地島を舞台に、海の環境保全の実験が今、行われています。

地島の全家庭において、シャボン玉せっけんを使用することで、生活排水を改善し、それが海の環境保全にどれくらいつながるかを明らかにするための実験です。

地島小学校でも、手洗いや歯磨きを、シャボン玉せっけんが提供したのを使っています。給食の食器を洗う洗剤も合成洗剤の使用をやめています。

先日、宗像市の秘書課、広報課の方とシャボン玉せっけんの方が、学校のように取材に来られました。



子供達は張り切って、いつもよりも？念入りに歯磨きをしている姿を撮ってもらいました。宗像市の広報誌に掲載される予定です。

この実験は、11月いっぱいまで続けられます。

考え・行動する避難訓練を実施



今年度2回目の避難訓練を行いました。一学期は、教室から先生たちといっしょに避難をしましたが、今

回は、それぞれが活動していた場所からの避難です。

学習中に、緊急地震速報(訓練用)が流れました。子供達は、どこに隠れたら安全か考えて行動しました。事前学習で学んだことを生かして、キャビネットの横やクローラーの下を避け、できるだけ頑丈な机の下に潜り込みました。また、日頃は通っていない非常口を開けて、運動場に向かう子供たちもいました。どの子も、真剣に訓練に参加していました。その後、教室で自分がたてためあてを振り返り、避難訓練は終わりました。

避難訓練は、三学期にもう一度、実施します。次回は、予告なしで行います。地島小学校は、いつでも、どこでも、正しい知識を基に、一人ひとりが考えて行動することで、全員の命を守ることができると考えています。